

## そっくりで、正反対な妹へ

小柏 奈帆子

幼稚園の年中組の夏、妹が生まれた。それまでは、二つ上の兄に引つ張ってもらうばかりだった自分が「お姉ちゃん」になるのがうれしくて、私は真剣に赤ちゃんの名前を考えたと登園の道を歩きながら、頭の中にいくつも候補を浮かべた。女の子とわかっていたから、どうしても自分と同じ「子」の字を付けたいと考えて、仲よし姉妹になるのをイメージした。そうして、ものすごい雷と大雨の夜、兄も私もどきどき待ち構えていたところに、無事に元気な赤ちゃんが誕生した。

それから、あつという間に五年が過ぎた。妹は、私がお姉ちゃんになった時とちようど同じ年になった。可愛らしい妹と、和やかな姉妹を想像していたはずなのに、今、現実はそのとだいぶ違ってしまっている。五才の妹は、半分は可愛いが、半分は怖い。正直なところ、その強さに圧倒されて、負けてしまう場面がたくさんある。運動が苦手な私とは逆に、小さい頃からとても活発な妹は、走ったり跳んだり登ったり、すいすい出来て立派だけれど、そのパワーが時々私に激しくぶつけられ、ちよつとした口げんかから、手加減なしで攻撃してくるので、たまったものではない。夢見ていたのとは全く別物のような、強力な妹に、全くうんざりしてしまふ。

でも、そんな妹の、ふとした一面に、思わず感心させられることがある。私の中には無い粘り強さや、何としてもやり抜こうとする姿に、じつとくぎづけになってしまふことがある。例えば、少し前の梅雨時。蒸し暑い中で、「今日は絶対〇回。」と目標を立てて練習を始めた縄跳びは、毎日それを達成するまで、汗びっしょりに、泣きそうになりながらも頑張りが続けた。達成できなければ、翌日すかさず再挑戦し、何が何でも成しとげた。鉄棒も、うんていも、手の平にまめができて、皮がむけてしまつても、「やる!!」と決めたら必ず最後までやり抜いた。その、決してめげない心は、つい自分を甘やかして途中でくじけてしまふ弱い私と比べると、本当にうらやましく、あこがれの気持ちがあふれてくるのだ。

それに、時にきょう暴化しても、実はとても優しい妹は、なまけ者の私や兄をそっこのけに、自分からてきぱきと洗濯物をたたんだり、手伝い上手だ。私達に頼みごとをする時には、すごく真面目に伝えてきて、そして心の込もった「ありがとう。」をくれる。けれども、私の方からこそ、もつともつと大きなありがとうを伝えたい。五年前、しわくちゃで、真っ赤な顔の小さな赤ちゃんだった妹へ。性格は正反対で、まぶたは二重と一重とで違うのに、なぜか皆に「姉妹そっくり。」と言われる妹へ。私が「りさこ」と名前を決めた妹、里咲子へ。本気で頑張ることの格好よさを教えてくれてありがとう。ここに、こうして、私の妹として生まれてきてくれて、本当にありがとう。